

2003年1月の日本の天候

多雨（北・東日本太平洋側）

1月の天気概況

上旬は冬型の気圧配置になりやすく、全国的に気温が低く経過した。中旬以降は低気圧が周期的に日本付近を通過し、通過後の冬型の気圧配置は長続きしなかったため天気は周期的に変化した。中旬は比較的大陸の高気圧にゆるく覆われることが多く、ほぼ全国的に晴れの日が多かったが、下旬には低気圧が日本付近で発達し通過したため、曇りや雨、雪の日が多くなった。気温も中旬以降は短い周期で変化した。

上旬：12月下旬から続いた強い寒気南下の影響で冬型の気圧配置が強まり、全国的に気温の低い日が多かった。3～4日には発達した低気圧が通過、全国的に雨や雪が降り、通過後は暴風や大雪など日本海側を中心に各地で大荒れの天気となった。旬後半には冬型の気圧配置が弱まったが、西日本中心に上空の寒気の影響を受け気温の低い日が続いた。旬平均気温は、全国で低かった。旬降水量は、北日本日本海側、西日本日本海側で少なく、北・東日本の太平洋側で多く、その他は平年並だった。旬日照時間は、北・東日本で多く、西日本、南西諸島は平年並だった。

中旬：低気圧が周期的に日本海や南岸を通過、通過後には大陸の高気圧にゆるく覆われることが多く、ほぼ全国的に晴れの日が多かった。気温も平年を上回る日が多かったが、南西諸島では上空の寒気の影響を受け気温の低い日が多かった。旬平均気温は、北・東・西日本で平年並、南西諸島で低かった。旬降水量は、東日本太平洋側、西日本日本海側で平年並の他は少なかった。旬日照時間は、北日本で平年並の他は多かった。

下旬：天気は周期的に変化した。低気圧が日本海や南岸で発達して通過したため、全国的にまとまった量の降雨や降雪があった。天気は低気圧の影響の小さかった南西諸島では晴れの日が多かったが、その他の地方では曇りや雨、または雪の日が多かった。下旬の終わりごろには再び冬型の気圧配置が現れ、西日本を中心に気温が低く経過した。旬平均気温は、北日本で高く、東・西日本は平年並、南西諸島は低かった。旬降水量は、南西諸島で平年並の他は多かった。旬日照時間は、南西諸島で多い他は少なかった。

1月の気候統計

平均気温：東日本から西日本で平年を下回り、特に甲信・中国・九州南部・南西諸島の一部などでは平年を1℃以上下回ったところがあった。釧原（長崎県）、宇和島（愛媛県）、名護（沖縄県）で月平均気温の最低値を更新した。また、広島（広島県）では月平均気温の最低値のタイ記録を記録した。

降水量：北海道の太平洋側、本州の太平洋側を中心に広い範囲で平年を上回り、特に東北・関東・東海・紀伊半島などで平年の170%以上となった。さらに東北・東海の一部で平年の300%以上となったところがあった。

あった。一方、北海道のオホーツク海側、東北北部・北陸・中国の瀬戸内海側・九州の一部、南西諸島などで平年を下回り、特に北海道のオホーツク海側の一部、九州の一部、南西諸島などでは平年の70%以下となったところがあった。

日照時間：北海道の一部、東北南部から東海、南西諸島などで平年を上回った。特に北海道の一部、南西諸島で平年の120%以上となったところがあった。名護（沖縄県）で月間日照時間の最大値を更新した。一方、北海道の日本海側の一部、東北北部、西日本の日本海側で平年を下回った。特に東北北部の日本海側では平年の60%以下となったところがあった。

降雪・積雪：降雪の深さは東北、甲信、東海の一部などで多かった。最深積雪は東北、関東・甲信、東海の一部、山陽、四国、九州などで多かった。広島（広島県）で降雪の深さ月合計値の最大値のタイ記録となった。また、津（三重県）で月最深積雪の最大値のタイ記録となった。

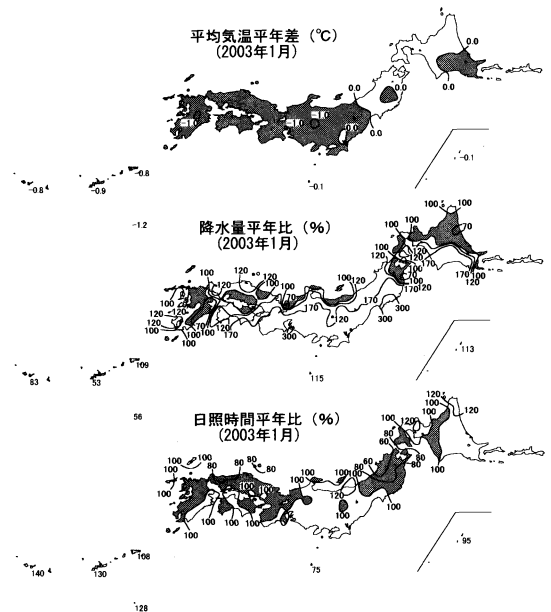
生物季節現象：ウメの開花が平年より早かった。

（気象庁観測部統計室）

1月の記録（1位更新のみ）

- ・月平均気温の低い記録（℃）
広島 4.2（タイ記録） 釧原 4.9 宇和島 6.0
名護 14.8
- ・日照時間の多い記録（時間）
名護 126.1
- ・降雪の深さの合計の多い記録（cm）
広島 10（タイ記録）
- ・月最深積雪の多い記録（cm）
津 10（タイ記録）

2003年1月の平年差（比）図



注）陰影の部分は、平年より低い（少ない）地域を示す